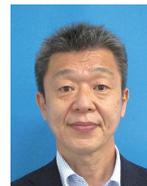


# コロナ禍における航空旅客需要



空港研究部長 小野 正博

(キーワード) コロナ、航空旅客、需要予測

## 1. はじめに

現在、空港研究部では、「各研究室の研究動向・成果」で紹介されているように、国土交通省における「インフラ分野のDX推進本部」と歩調を合わせ、「自動運転空港除雪車両の導入に向けた研究」や「空港工事等帳票管理システムの構築」など、空港分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する研究を多く手掛けているが、ここでは、ソフト分野である需要予測に係る研究に関連し、新型コロナウイルス（以下、コロナ）感染拡大により大きな影響を受けている航空旅客需要について述べる。

## 2. 航空需要予測について

航空の需要予測は、空港・航空政策検討の基礎資料となったり、空港整備に際し、施設規模等の設定、事業効果の算定根拠となったりと、大変重要な役割を担っている。できるだけ正確な予測を行うために、空港研究部が開発した予測モデルに改良を重ね、今日に至っている。

インプットデータとして、人口や個人所得、交通機関のサービスレベル（所要時間、運賃等）、各種調査より得られた旅客流動実績値を用いており、特に、5年に1度の調査である全国幹線旅客純流動調査により得られる、各地域間の流動量や交通機関選択割合等の最新のデータを用い、予測精度を高める作業を行っている。

ここで得られる需要予測は、冒頭に触れたように空港・航空政策の検討に用いるためのものであり、10年以上の長期間を見据えており、今般のコロナによる需要減を予測するものではない。しかし、コロナを機とするリモートワークやオンライン会議の増加等、生活様式の変化によってもたらされる航空旅

客需要の変動要因は、モデルに組み込んでいく必要がある。

## 3. 航空旅客需要の動向

本原稿執筆段階において、全国の新規コロナ感染者数は、1日9万人超と第5波を大きく上回り、拡大している。新規コロナ感染者数、訪日外客数、航空旅客数の動向をそれぞれ図-1～図-3に示す。

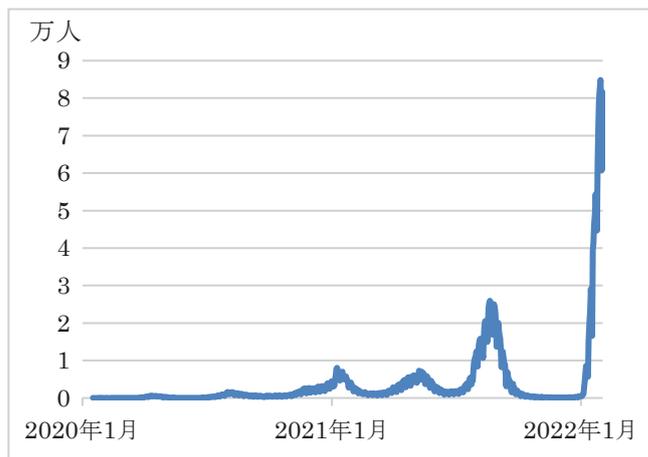


図-1 1日の新規コロナ感染者数

出典：厚生労働省HP

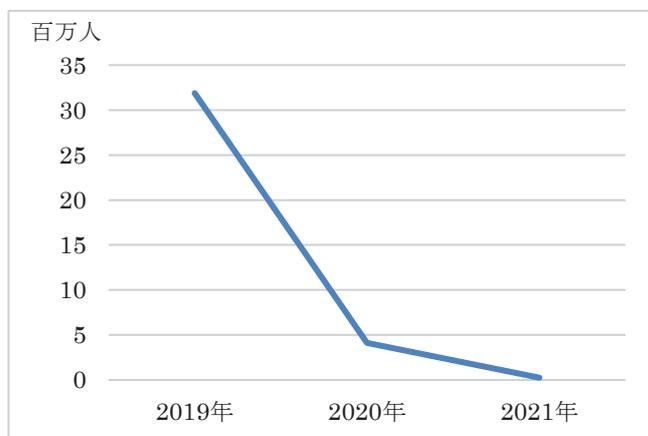


図-2 訪日外客数

出典：日本政府観光局（JNTO）

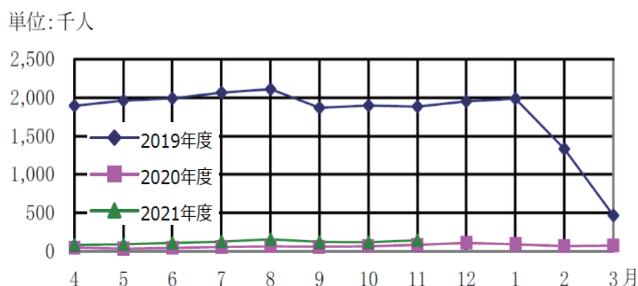
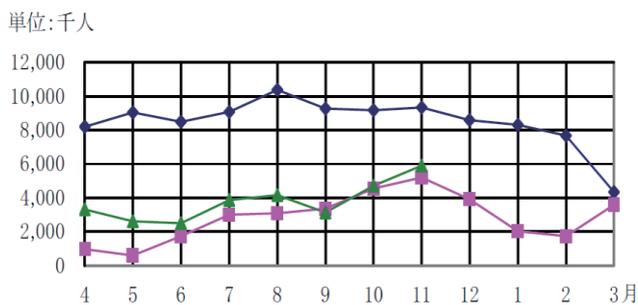


図-3 航空旅客数（上：国内、下：国際）

出典：航空輸送統計調査

国内線に関しては、国内の感染状況や緊急事態宣言の発令に伴い、月別、路線別に変動が生じているが、概ね2019年比5割を下回る状況が続いている。

国際線に関しては、国別の感染者数に応じて渡航制限が異なり、路線による違いはあるものの、全体として訪日外客数の減少に伴い、9割超減の状況が続いている。

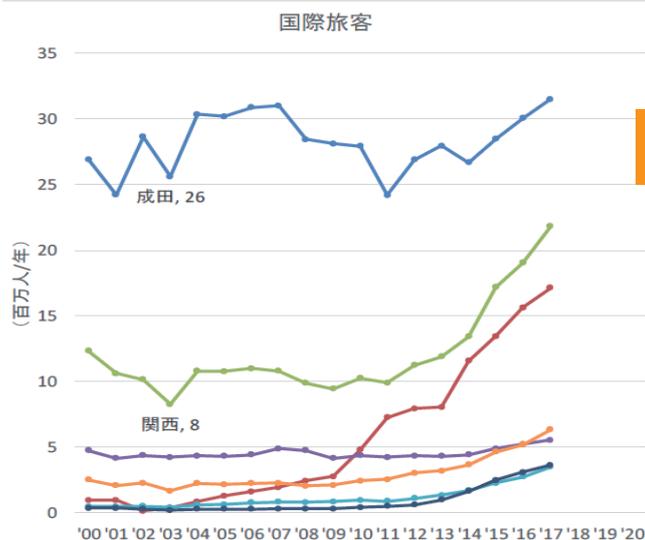
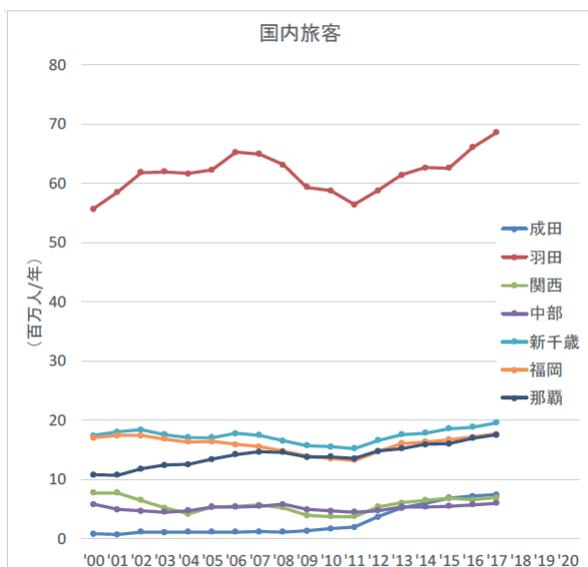


図-4 空港別の旅客数

出典：空港管理状況調査

過去の航空旅客需要の動向（図-4）を見ると、アメリカ同時多発テロ（2001年）、SARS（2003年）、リーマンショック（2008年）、東日本大震災（2011年）など、災害、事件等により、変動していることがわかる。例えば、2003年のSARSでは、国際旅客が、成田空港で11%、関西空港で18%、新千歳空港で20%、福岡空港で27%減少している。

#### 4. 航空需要予測への反映

今回のコロナ禍は、2年、3年と長期にわたること、全世界が同時に見舞われている点において、特徴的である。引き続き、コロナ感染の動向、これに伴う生活様式の変化や航空旅客需要の推移を見守り、航空需要予測への反映方法について、研究を進める。

#### 5. おわりに

空港は、国民生活を支えるとともに、社会経済を牽引する重要なインフラである。今般のコロナ禍により需要が大きく落ち込んでいるものの、果たす役割に変わりはない。今後とも、安全安心の確保、利便性の向上に資するよう、空港施設の整備や管理に関する様々な課題に対応して、調査研究に取り組んでまいりたい。